

実践チーム医療論（病棟実習）

責任者・コーディネーター	分子生物薬学講座 前田 正知 教授、臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授、臨床薬剤学講座 佐藤 淳也 講師		
担当講座・学科(分野)	構造生物薬学講座、天然物化学講座、衛生化学講座、機能生化学講座、生体防御学講座、薬物代謝動態学講座、分子生物薬学講座、臨床医化学講座、臨床薬剤学講座		
対象学年	6	区分・時間数	実習 34.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

病院実務実習修了後に、アドバンストな知識・技能・態度を、病棟実習を通して修得することを目指し、小グループ（2名）に分かれて病棟実習を行なう。3日間の病棟実習の後、2日間は問題点を抽出し資料を作成する。全グループが実習を終了した時点で、全体発表・討議を行なう。

・一般目標（GIO）

様々な医療スタッフと協働・連携して、患者中心の医療の担い手として診療・治療・ケアを実践するチーム医療に参加できる専門性・実践能力を高めるため、病院実務実習を修了後に、アドバンストな知識・技能・態度を、病棟実習を通して修得する。

・到達目標（SBO）

1. 患者の診療過程を理解し、そこに携わる医療スタッフを列举できる。
2. 各医療スタッフの専門性、役割について説明できる。
3. チームで取組むべき事例を挙げ、医療スタッフ毎に問題点を明確化し、薬剤師が関与できることを列举できる。
4. 各診療科の病棟で繁用される基本的な医療用語や略語の意味を説明できる。
5. 各診療科で扱う典型的な疾病の自覚症状・他覚所見、治療薬の処方意図、副作用や禁忌疾患を説明できる。
6. 治療のレジメンを把握し、処方された医薬品の治療効果および副作用をモニタリングできる。
7. 患者や他の医療スタッフとコミュニケーションを適切にとることができる。
8. 実習中に自ら経験した症例の問題点や疑問点を抽出し、解決策を提案できる。

・実習日程

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	実習内容
全員	7/5	金	1	分子生物薬学講座 臨床薬剤学講座	前田 正知 教授 佐藤 淳也 講師	全体説明、および、SGDによる実習に向けた各自の目標設定
1	7/22	月	1・2	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習1日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	実習内容
1	7/22	月	3	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 1 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
1	7/22	月	4	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 1 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
1	7/23	火	1・2	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 2 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
1	7/23	火	3	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 2 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
1	7/23	火	4	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 2 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
1	7/24	水	1・2	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 3 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
1	7/24	水	3	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 3 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
1	7/24	水	4	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 3 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
1	7/25	木	1~4	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 4 日目：担当診療科等で提示された代表的な症例について、疾病の特徴、診断、検査（診断・副作用）、薬物療法等の経過をまとめ、症例報告会の準備を行なう。
1	7/26	金	1~4	臨床医化学講座 構造生物薬学講座 分子生物薬学講座 天然物化学講座	那谷 耕司 教授 毛塚 雄一郎 助教 牛島 弘雅 助教 浅野 孝 助教	病棟実習 5 日目：担当診療科等で提示された代表的な症例について、疾病の特徴、診断、検査（診断・副作用）、薬物療法等の経過をまとめ、症例報告会の準備を行なう。必要に応じて電子カルテ等も利用する。

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	実習内容
2	7/29	月	1・2	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 1 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
2	7/29	月	3	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 1 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
2	7/29	月	4	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 1 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
2	7/30	火	1・2	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 2 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
2	7/30	火	3	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 2 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
2	7/30	火	4	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 2 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
2	7/31	水	1・2	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 3 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
2	7/31	水	3	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 3 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
2	7/31	水	4	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 3 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
2	8/1	木	1~4	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習 4 日目：担当診療科等で提示された代表的な症例について、疾病の特徴、診断、検査（診断・副作用）、薬物療法等の経過をまとめ、症例報告会の準備を行なう。

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	実習内容
2	8/2	金	1~4	薬物代謝動態学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座	小澤 正吾 教授 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教	病棟実習5日目：担当診療科等で提示された代表的な症例について、疾病の特徴、診断、検査（診断・副作用）、薬物療法等の経過をまとめ、症例報告会の準備を行なう。必要に応じて電子カルテ等も利用する。
全員	8/22	木	3・4	分子生物薬学講座 臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座 臨床薬剤学講座 天然物化学講座 構造生物薬学講座 衛生化学講座 機能生化学講座 生体防御学講座 分子生物薬学講座	前田 正知 教授 那谷 耕司 教授 小澤 正吾 教授 岩 渕 修 助教 浅野 孝 助教 毛塚 雄一郎 助教 米澤 正 助教 關谷 瑞樹 助教 丹治 貴博 助教 牛島 弘雅 助教	実習に参加した2クラス16グループの全員が集まり、各グループごとに症例報告を行い、チーム医療に果たす薬剤師の役割について総合的に討論する。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
推	病気が見える vol.1 消化器 第4版	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2010
推	病気が見える vol.2 循環器 第3版	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,300 円)	2010
推	病気が見える vol.3 糖尿病・ 代謝・内分泌 第2版	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2008
推	病気が見える vol.4 呼吸器	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,200 円)	2007
推	病気が見える vol.5 血液	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2008
推	病気が見える vol.6 免疫・膠 原病・感染症	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2009
推	病気が見える vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,800 円)	2011
推	病気が見える vol.8 腎・泌尿 器	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,300 円)	2012
推	薬物治療学	吉尾 隆 他 編	南山堂 (定価 8,800 円)	2011
推	臨床薬剤師必携 内科処方マ ニュアル 改訂2版	臨床薬学研究会編	南山堂 (定価 2,800 円)	2008

	書籍名	著者名	発行所	発行年
推	治療薬マニュアル 2012	高久 史麿 監修	医学書院 (定価 5,000 円)	2012
推	治療薬ハンドブック 2012	高久 史麿 監修	じほう (定価 4,200 円)	2012

・成績評価方法

単位取得のためには、全期間の出席が必要である。実習と資料作成時の態度、及び、全体発表の内容などを総合的に判定する。